

主な意見要旨（委：策定委員会、産：産業部会、労：労働部会、車：車座集會）

中小企業・小規模事業者対策等、地域創生に資する産業の振興

（小規模事業者対策）

- ・小規模事業者の明示はありがたい。計画には事業者の意見を踏まえることが大事(委・産)
- ・小規模事業者は年々減少、いかに活性化するか。成長鈍化の企業の応援も大事(委・産・車)
- ・企業のほとんどが中小企業なのに知られてない。社会の仕組みを先生に知ってもらおう事も大切(車)
- ・大手は県外に利益を持っていく。小さい商店をいかに増やすかが大事。(車)

（事業継承）

- ・事業継承は小規模事業者にとって切実な問題(産)
- ・経営者が将来に夢が持てないことが廃業の原因。(車)
- ・商店街は地域コミュニティーの担い手、人材育成が課題。後を継ぐ人がいない。(委)
- ・後継者がいないために廃業する企業が増えている。経営者に情報が足りないのが課題(車)

（支援制度）

- ・「魅力ある商店街づくり」が課題。街づくりという観点から議論をすることが必要。(委)
- ・商店街への補助金も個社に届くようにしてほしい。(車)
- ・農商工連携では「カイゼン」「自働化」が重要。生産技術革新により中小にも参入の余地(委)
- ・販路開拓における WEB 活用の検討をお願いしたい。(委)
- ・小規模事業者(の技術等)を磨く方向で検討して欲しい。自らは輝けない。(産)
- ・中小企業の品質管理・保証能力の強化をお願いしたい。(産)
- ・補助金については、もっと手続きを簡素化してほしい。事後の請求も可として欲しい(車)
- ・申請がうまい人が補助をもらえる。使い方に目利き力がないと効果的な施策にならない。(車)
- ・あいちブランドは情報収集や業種交流で有効。継続して欲しい。(産)
- ・BCP について、産学官金の横串の連携について方向付けできれば効果的ではないか(産)
- ・販路拡大では、対象をしぼったニーズの合うマッチングがあると良い。(車)
- ・製造業の起業に対する支援が少ない。(車)
- ・中小企業は、依然、信用創造が難しい。経営革新をとっても枠がなければ意味がない。(車)
- ・事業に集中できれば成果は出せる。運転資金で支援が必要。(産)
- ・地域の金融については、そのルールを地域が決められるようにできるといい。(車)
- ・県が関与して新しい与信制度ができると良い。金融と行政がバラバラにやっている。(車)

（その他）

- ・「やる気のある」「意欲のある」というキーワードを入れてほしい。(委)

次世代産業の育成強化・研究開発機能、立地環境の整備

（次世代自動車、航空宇宙産業）

- ・FCV の普及支援に、EV は含まれないのか。(委)
- ・次世代旅客機のイメージがわからない。(委)

（その他産業）

- ・ソーシャルビジネスについて入れてほしい。(委)
- ・次世代産業に農業がない。(委)
- ・高齢者や福祉産業が含まれていない。(委)
- ・静脈産業が入っていない。再生資源の産業は将来大きな核になる。(委)
- ・IT, ICT が無い。プログラミング能力の不足が課題。基礎教育で考えるべき。(委・産)
- ・情報を使ったモノづくりのサービス化など新しい技術の活用も検討すべき(産)
- ・地域毎のエネルギー統計が今はわからない。経済循環調査の補助があると助かる。(車)

（立地環境・事業環境）

- ・県内企業の企業力を強化しないと、主要産業が他県に出ていってしまう。(産)

- ・アカデミックな研究助成が減っており、大学が海外の企業と組んでいる。(産)
- ・国内立地環境の整備は、県内ではないのか。他県も含むのか(委・産)

グローバル展開

- ・中小のサービス業は海外に出て行けない。販路開拓だけでも支援してほしい。(車)
- ・国内で生産し、世界から仕事を取ってくることもグローバル化。(委)
- ・海外展開は中小単独では困難。共同でできるようにする事も大事(車)
- ・海外進出では、現地の情報をしっかり掴み検討すべき。(産)
- ・海外情報センターでは、GNI など関連組織との連携を県が主導する視点で書くべき(産)
- ・物流コストが高く(港湾関係等)小口では更に割高で中小には負担。(車)
- ・グローバル化では、「言葉」が重要。取引条件にもなっている。(委)
- ・グローバル展開は「企業が輝く」に分類されるのではないのか。(委)

観光の促進

- ・リニアを睨んで、首都圏や近畿圏を意識する必要がある。(委)
- ・アジアからの増大する観光客をどう取り込むかが課題。(委)
- ・産業観光の視点が重要。(委)
- ・半島部の活性化が重要。(委)
- ・働きやすさ、住みやすさも考えないと人が足りなくなる。(委)
- ・観光では、WIFI と両替が課題。産業観光では中小でも見せ方次第で協力できる。(車)
- ・シビックプライド、シティープロモーションを前面に出すべき。(車)

就業促進等

(若者、女性、高齢者、障害者の就業支援)

- ・障害者の就業では学校との連携が大事。障害者については踏み込んで話してほしい。(委)
- ・在宅就労支援(多様な就業支援)を入れるといい。(委)
- ・学校(大学、専修学校)との連携も入れるといい。(委)
- ・若年者の早期離職対策は支援が少ない。(委)
- ・早期離職対策は重要だが一律の対策は困難。再チャレンジ可能な仕組みが必要。(委)
- ・女性の就労の問題を女性の問題とするのではなく、男性がどうすべきかだ。(労)
- ・女性の活躍は男性の意識が、障害者の問題は健常者の意識が課題。(労)
- ・高齢者がもう一度労働市場でがんばれるマーケットを創ることが大切(労)
- ・給与が低すぎるのが問題。発注単価が崩れすぎている。(車)

(人材不足業種の支援)

- ・建設、介護等の人手不足については、他部局とも連携して進めてほしい。(委)
- ・建設、運輸の求人がひどい。きついイメージと給与に差。運輸は産業の生命線。(車)
- ・不況がまた来るとしておくべき。雇用の確保も入れておいたほうが良い。(委)

(非正規雇用労働者)

- ・生活保護に若者が並んでいる。生活保護より非正規の給与が低いのは問題。(車)
- ・非正規労働者の正社員化は多様な働き方を目指す方がいいのでは。(委)
- ・非正規労働者という表現は、非正規雇用労働者という表現に改めたほうがいい。(委)
- ・非正規が正規に移行できるシステムが必要(労)
- ・高齢化を踏まえ、短期間勤務など非正規のシステムも必要。(労)
- ・育休などのシステムは正社員のみ。非正規には普及していない。(労)

生き生きと働ける社会の実現

(女性・高齢者・障害者の活躍)

- ・女性の支援では個々に望むものが違う。多様な働き方への支援も充実させてほしい。(委)
- ・女性・高齢者の活躍には、障害者も含むべき。(委)

- ・夫婦併せて総労働時間を短縮し、家庭に割ける時間を増やすことが必要（労）
- ・障害者は特徴をきちんと把握し、時間と労力をかければきちんと対応できる。（労）

（介護対策等）

- ・地域での助け合いが施策として必要。既にパートでやめる事例が増えている。（車）

（ワーク・ライフ・バランスの促進）

- ・WLBには、総労働時間の短縮が必要。生産性の上がる働き方の検討が必要（労）
- ・WLBの柱が広義に捉えすぎ。労働相談や労働環境の改善が捉えにくい。（委）
- ・WLBでは、当地域の住環境の優位性、食文化の豊かさをPRするとよい。（委）
- ・WLBは働き方そのものを考えないといけない。柱としては残してほしい。（委）
- ・WLBは非常に広義。ビジョンではわかりやすくする必要がある。（労）
- ・日本はメンバーシップ型の雇用。WLBだけを変えるのは難しい。（労）
- ・管理職がWLBを考える体験をすることが必要（労）
- ・中小・小規模事業者への普及が課題。（労）
- ・団塊の世代が後期高齢者になることを見据えた計画を。仕事と介護が両立できるシステムの検討が必要（労）
- ・学校教育の段階から教えていくべき。（労）
- ・WLBで大切なのは、生き甲斐と定着。やりがいを感じてもらおうと定着できる。（労）
- ・WLBは多様な働き方の推進の方がいいのでは。（労）

人材育成(人口減少)

（人材確保・定着）

- ・人口減少の中、人材育成・確保が重要。（委）
- ・背景にある、高齢化・後継者不足にも光をあてる議論をしてほしい。（委）
- ・首都圏からのUターン人材誘致、産業観光分野の人材育成も入れたほうが良い。（委）
- ・大手志向はまだ強く中小は採用に苦戦している。（産）
- ・以前に比べれば大手志向は減ってきている。（産）
- ・育成、確保に加えて、定着の視点も必要。（労）
- ・転職しながらスキルアップする業種が併存できる社会にすべき（労）
- ・定着と流動化両方とも必要。バランスが大事。（労）
- ・企業OBの活用では、中小の役員など目線の会う人とマッチングできると良い。（車）
- ・組織に加盟してからは、会社を良くしようとの思いからか離職者が出ていない。（車）
- ・人材育成の助成金は手続きや条件が厳しく使いにくい。（車）
- ・労災や社会保険をきちんとするほど首がしまる。給料もたくさん払えずなり手がない。（車）
- ・企業の必要なものが学校に伝わっていないのではないかと。（車）

（職業能力開発）

- ・技能検定の予算が減らされている。（産）
- ・中小企業が単独では難しいキャリアアップ支援などに力を入れてほしい。（委）
- ・専門校では職工を募集しているが、現実には作家志望が多い。作家希望でいいのでは。（車）

（キャリア教育・学校教育）

- ・小中高大(発達段階に応じた)の縦の連携・交流が必要。（労）
- ・地域のプラットフォームを設け、連携・交流の場を作ってほしい。（労）
- ・インターンシップの仲介、コーディネータによる支援があると取り組みやすい。（産）
- ・インターンシップは、キャリア教育の一環と位置づけるべき。（産）
- ・中高でもっとキャリア教育を行うべき。インターンシップ・職場体験にも力を入れて欲しい（産）
- ・学校をサポートするコーディネータ、カウンセラーの育成・活用が必要。（労）
- ・離職、失業などリスクに対する対応の仕方についても学校で教えるべき。（労）
- ・子供の頃からものづくりへの興味を高める雰囲気づくりを地域で進めることが重要。（委）

- ・人材の育成では、学校教育に踏み込む必要がある。(委)
- ・専門高校、高専で専門的な教育を行い、即戦力の人材を送り出して欲しい。(産)

(労働生産性の向上)

- ・労働生産性をいかにあげていくかが重要。指導者の教育が必要(委・労)
- ・労働生産性の向上には作業標準が必要。介護の分野も同様で、愛知なら可能(労)
- ・サービス業における生産性向上も必要。(労)
- ・仕事の教え方、カイゼンの仕方等を見直してもらえる働きかけをしてはどうか(労)

その他

(支援機関の連携・交流)

- ・人材育成では、行政、企業、本人の当事者を明確にすることが必要。(委)
- ・支援機関の連携には当事者意識が大事。そうした表現をいれてはどうか。(労)
- ・連携においてはコーディネータが必要。コーディネータの育成を考えてはどうか(労)
- ・支援機関の相互連携強化策について、弱点を補強する役割分担も検討してほしい。(委・産)
- ・中小企業支援センターに求められる役割について検討してほしい。(委)
- ・企業の社会貢献には、商工会等がもっと企業と連携をとる必要がある。(車)
- ・県内の市町村や近隣県、ひと・もの・しごとのビジョンを踏まえて検討してほしい。(委)
- ・広域経済圏の議論が出ていない。全部を愛知県ではやれない。近県との連携を。(委)
- ・県、市町村、経済団体が一体となった取組についても議論してほしい。(委)
- ・連携も重要だが、役割分担も考えないといけない。(委)

(計画の方向性)

- ・我々の目指す方向性と一致しており、全体としてはこれで良い。(委)
- ・目指すところは、幸せが見えるビジョン。柱立てはいい。(委)
- ・TOKAI VISIONの柱に沿っており柱立てはいい。広域的な取組をどう入れていくかの視点が必要(委・産)
- ・地域・企業・人は並列ではなくトライアングルになる。(委)
- ・あいちビジョンからつながる地域・企業・人への線に少し無理がある。精査が必要。(委)
- ・このビジョンは、発展の方向性を示すもので、網羅的な計画を作る訳ではない。(委)
- ・コミュニティービジネス・ソーシャルビジネスは他分野に関係する。検討して欲しい(産)
- ・女性の活躍は労働、キャリア教育は産業部会だが、互いに議論があってもいい。人材育成、就業促進、WLBは、どれもがリンクしている。(産・労)
- ・起業・創業支援については産業部会でも検討する必要があるのではないかと(産)
- ・物理的な豊かさを目指しているように見える。CSRなどの要素も入れてはどうか(労)
- ・従来から力を入れてきた中小企業支援、次世代産業は、引き続きお願いしたい。(委)
- ・公契約の記述がない。(車)
- ・内需についても考えていただきたい。(車)

(目標設定)

- ・何をやるかだけでなく、どうやるかも検討すべき(産)
- ・進捗管理では、数値にとらわれすぎず、施策の実効性の検証をする運営を。(労)
- ・効果測定のできる目標を設定しないと絵空事になる。(労)
- ・県民の働く姿をイメージして目標を立てる必要がある。(労)